

「長崎和牛」繁殖雌牛の飼育管理暦

目標

- 適正なボディコンディションで分娩後80日以内に受胎させ、1年1産を達成しましょう！
- 育種価が高く発育良好な雌子牛を導入し、高齢牛(10産以上)の更新に努めましょう！

月 齢		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24				
体 高 (cm)		112	115	117	119	120	122	123	124	125	126	127	127	128	128	129	129				
体 重 (kg)		262	280	310	330	350	365	380	390	400	410	420	430	435	440	445	445				
給与目安 (kg/日)	配合飼料 (げんきつ娘、新やまと繁殖)	3.5		げんきつ娘				3.0		2.5		2.5		やまと繁殖		3.5	4.0				
	良質乾草 (オーツヘイ、チモシー、イタリアン出穂期)	4.5																			
	稲わら	0.5				1.0				2.0											
管理項目	導入時の目安	・月齢:11ヵ月齢				・月齢:13ヵ月齢				・授精後40日から				・月齢:18~20ヵ月齢				・栄養度の目安:6			
	種付開始の目安	・体高:115cm				・体高:121cm以上				・体高:128cm											
	《発情観察の強化》	◎朝夕の観察				《十分な日光浴・運動、過肥に注意》				◎この時期過肥になると難産の発生や泌乳量の低下につながる				《分娩前の増し飼い》				◎牛の状態をみて給与量の増			

分娩後月齢(月)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
繁殖ステージ		泌乳期			維持期							妊娠末期	
給与目安 (kg/日)	配合飼料 (新やまと繁殖)	3.0		2.0		0.5						2.0	
	粗飼料 (イタリアンサイレージ)	12.0		10.0		8.0							
	稲わら	3.0											

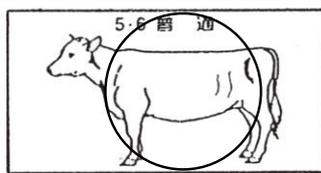
*夏作飼料(スーダン、ソルガム)や飼料稲WCS、刈り遅れた冬作飼料(イタリアンライグラス、エンバク)は、タンパク質が不足する可能性があるため、大豆粕を少量(200~300g)補給すること。

管理項目		分娩	発情発見・種付・妊娠鑑定	削蹄	肝てつ駆除	分娩室の清掃と消毒
			・目標、分娩後80日以内に受胎	・年3回の実施	・11~3月に2回	・消石灰の散布、清潔な敷わら
管理項目	《分娩後の増し飼いの徹底》	◎母牛の栄養不足は発情回帰遅延や子牛の母乳性白痢症を誘引します。		徐角		《分娩前の増し飼いの徹底》
	《1年1産を目指して》	◎授精後40日で妊娠鑑定を受診。 ◎分娩後50日以上発情不明牛及び3回以上授精しても不受胎の牛は獣医師の診断を受ける。 ◎制限哺乳や早期離乳は発情回帰を促します。		駆虫		◎この時期の栄養不足は産子が小さく虚弱になる原因となります。 ◎更に、分娩後の発情回帰にも大きく影響します。
	自由な飲水→ウォーターカップの水圧確認		ミネラルの補給→鉱塩の設置		ビタミンの補給→定期的な青刈りやビタミン剤の給与	

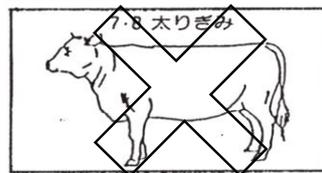
繁殖牛として好ましいボディコンディション(栄養度)の目安



・肋骨が3本以上ははっきり見分けられる



・肋骨が1~3本見える



・肋骨が見分けられない

人工哺乳

- ・母乳の乳量不足による子牛の発育不良や母牛の死亡等により子牛の哺乳ができなくなった場合は人工哺乳を行う。
- ・代用乳(ミルクダッシュ等)を飼料袋に記載された通りの量と割合で給与する。

屋間分娩法

- ・飼料給与は分娩予定日の2週間前から1日1回夕方のみとする。
- ・翌日の朝には残飼を全て撤去する。
- ・水は不断給与する。



繁殖カレンダー



ティールペイント



ヒートマウントディテクター

県南地域和牛改良協議会

JA全農ながさき・JA島原雲仙・JAながさき県央・JA全農くみあい飼料協